

2023年度

シラバス

第2学年（第6回生）

学校法人 医療創生大学

葵会仙台看護専門学校

領域	基礎分野		科目	倫理学		担当	菅原 宏道			
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	60%	小論文	40%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
菅原 宏道		大学院及び専門学校で講義担当								
到達目標		倫理的・社会的な諸問題に適用される「ものさし」は、演繹論理学におけるような真偽ではなく善悪であるがゆえ、私たちは、時代、社会、国家、文化、状況などに相応しい善なる対応が求められていることを理解し、生命・医療に関する諸問題に対し、暫定的にせよ、自分自身の現在の主張を提示できるようにする。								
授業概要		倫理的な考え方、概念、理論を理解した上で、医療技術の発展や生命科学の進展によって新たに生じた、生命・医療に関する倫理的・社会的な諸問題が一般にどのように議論され、公的に規定されているかを整理して学ぶ。理解促進のため、何回か短い動画を観ます。								
学習者への期待 (準備学習含む)		授業を通じ、生命・医療の倫理的諸問題に対し、自身ならどのような規範（ルール）にするか、そしてそれはどのような根拠に基づくかを常に意識することを期待します。また、予習より、整理して理解し、知識として定着させる復習を重視してください。毎回レジュメを配付します。								
回数	項目		授業内容						授業方法	
1	倫理学の導入		倫理学の基本1 (1)善悪と真偽 (2)事実と価値 (3)ヒトと人間						講義	
2			倫理学の基本2 (1)生命倫理学の役割 (2)価値としての健康						講義	
3	倫理理論・倫理原則		合理的な倫理的判断1：倫理理論 (1)倫理的利己主義 (2)社会契約説 (3)功利主義 (4)義務論						講義	
4			合理的な倫理的判断2：医療倫理の四原則 (1)自律尊重原則 (2)無危害原則 (3)善行原則 (4)正義原則						講義	
5	生命倫理		生殖補助医療（ART） (1)人工授精 (2)体外受精 (3)（新型）出生前診断と着床前診断						講義	
6			人工妊娠中絶と胎児の権利 (1)生物学的ヒトと人格を持つ人間 (2)プロライフとプロチョイス						講義	
7			能力の増進と肉体の増強（エンハンスメント）： 医療の使命と医療化の問題						講義	
8			ケース・スタディ：映画を観て生命を考える。						講義	
9			がん告知とインフォームド・コンセント (1)患者の権利とパターナリズム (2)真実告知とIC						講義	
10			終末期医療と安楽死 (1)クオリティ・オブ・ライフ（QOL） (2)諸安楽死の是非						講義	
11			クローニング技術 (1)生殖目的のクローニング (2)研究・治療目的のクローニング						講義	
12			ES細胞とiPS細胞 (1)ES細胞の倫理的問題 (2)iPS細胞の有用性と倫理的問題						講義	
13			臓器移植1：生体臓器移植 三徴候死と脳死						講義	
14			臓器移植2：死体臓器移植 脳死と臓器移植法						講義	
15	単位認定試験と解説								講義	
教科書		『マンガで学ぶ生命倫理』、児玉聡（著）、化学同人、2013年								
参考文献		『入門・医療倫理 I（改訂版）』、赤林朗（編）、勁草書房、2017年								
備考										

領域	基礎分野		科目	教育学		担当	本間 明信	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
本間 明信		教育学部にて講義を担当						
到達目標		望ましい人間形成の在り方、人間の可能性に向けての教育の意義を理解し、看護における教育活動に応用するための方法を理解する。						
授業概要		確かな根拠に基づいて、物事を判断する力を養う。						
学習者への期待 (含む準備学習)		つねに「問い」を持つ習慣を身に付けてほしい。						
回数	授業内容						授業方法	
1	学ぶということ、教えるということに何が問われているか						講義	
2	日本の学校教育の現状と課題						講義	
3	確認と理解の相違は何か						講義	
4	「問い」と「吟味」の学び方の形成						講義	
5	「対話」「討論」のコミュニケーション能力の形成						講義	
6	心と体のつながり、かかわりについて						講義	
7	エンパワーメントとは何か、そこで問われているものは何か						講義	
8	教師の専門性、指導力とは何か						講義	
9	教材研究能力とは						講義	
10	学習課題の設定と授業の構造化の課題						講義	
11	クリティカルシンキングについて						講義	
12	学習者の内面理解と対応の技術について						講義	
13	評価とは何かー授業者の自己評価						講義	
14	学習者自身の自己評価と課題の認識						講義	
15	単位認定試験と解説							
教科書								
参考文献								
備考								

領域	専門基礎分野		科目	病態治療学VI		担当	宮本 慶一(26) 庄司 好己(4)	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
宮本 慶一		消化器外科医師として病院勤務。資格：医学博士、外科専門医・指導医、消化器外科専門医・指導医、消化器病専門医、がん治療認定医、消化器がん外科治療認定医、食道科認定医						
庄司 好己		病院長として勤務。資格：医学博士、日本胸部外科学会認定医、日本外科学会認定医						
到達目標		【外科総論】外科療法における手術侵襲と生体反応について理解する。術後合併症の原因、病態の対応法について理解すると共に術後疼痛管理の重要性を理解する。手術に必須な手技である麻酔法と輸血管理について理解する。 【外科各論】頭頸部から腹部まで外科的疾患の診断治療について理解する。						
授業概要		外科的疾患に関連する病態・治療、麻酔について理解する。放射線の基本を理解しつつ、治療法について理解する。また、病態・治療に必要な臨床検査について理解する。						
学習者への期待 (準備学習含む)		各科の病態を理解したうえで、看護に取り組めるように学んでほしい。						
回数	単元		授業内容				授業方法・担当	
1	外科総論		1. 手術侵襲と生体反応、炎症				講義・宮本	
2			2. ショック 播種性血管内凝固症候群 (DIC) 多臓器不全				講義・宮本	
3			3. 術後合併症とその対策 術後疼痛管理				講義・宮本	
4			4. 麻酔法 輸液管理				講義・宮本	
5	外科各論		5・6 頭頸部 肺 胸部				講義・宮本	
6							講義・宮本	
7			7・8 心臓、脈管系				講義・庄司	
8							講義・庄司	
9			9・10 消化器及び腹部				講義・宮本	
10							講義・宮本	
11			11. 12 救急法				講義・宮本	
12							講義・宮本	
13	学習のまとめ		周手術期における看護				内部教員	
14							内部教員	
15	単位認定試験と解説							
教科書								
参考文献		系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論 臨床外科看護各論 医学書院						
備考								

領域	専門基礎分野	科目	統合臨床判断		担当	松木 琢磨 (2) 飯牟禮 明子 鈴木 美佐子			
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	後期	1単位	15時間	15回	講義・演習	個人課題	50%	GW課題	50%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験							
松木 琢磨		医師として病院勤務。小児科専門医、腎臓専門医。							
飯牟禮 明子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。							
鈴木 美佐子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。							
到達目標		病態治療学各期の知識を統合し、臨床推論を深めることができる。							
授業概要		事例演習における観察やデータ値から読み取れる事象や可能性について、グループ内でディスカッションし緊急度・重症度の判断や臨床推論を発表する。							
学習者への期待 (準備学習含む)		今までの学習から得た知識を統合し、沢山の可能性について考えてほしい。							
回数	単元	授業内容				授業方法・担当			
1	臨床推論の思考過程について パターン思考の落とし穴	臨床判断モデル 学習の進め方 疾患を特定するためには知識や技術				講義			
2	症例1	「胸痛」				講義・演習			
3	発表と助言	グループ演習 推論発表 情報収集 観察 推論結果 報告→検査指示				講義・演習			
4	症例2	「腹痛」				講義・演習			
5	発表と助言	グループ演習 推論発表 情報収集 観察 推論結果 報告→検査指示				講義・演習			
6	症例③	「浮腫」				講義・演習			
7	発表と助言	グループ演習 情報収集 観察 推論結果 報告→検査指示				講義・演習			
8	発表と助言	推論発表				講義・演習			
教科書		『臨床判断ティーチングメソッド』 (医学書院)							
参考文献									
備考									

領域	専門基礎分野	科目	リハビリテーション論	担当	菊池 佑馬 (6) 田邊 理 (6) 角山 麗香 (2)					
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
2年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	受講態度	10%
担当者名	担当講義に関する経歴及び実務経験									
田邊 理	理学療法士として介護老人保健施設勤務。									
菊池 佑馬	作業療法士として介護老人保健施設勤務									
角山 麗香	言語聴覚士として介護老人保健施設勤務。									
到達目標	人間が人間として権利を回復する活動としてのリハビリテーションの概念と意義を学ぶ。 リハビリテーションの理念とチーム医療における看護師の役割を理解する。									
授業概要	リハビリテーション概要と障害・状態別リハビリテーションの実際について講義を通して学ぶ。									
学習者への期待 (準備学習含む)	教科書を事前学習し不明な点は明確にすることを習慣にしてリハビリテーションの理解に臨むこと。									
回数	授業内容							授業方法・担当		
1	リハビリテーションの基本的考え方 (1) リハビリテーション理念 (2) リハビリテーションの対象と目標 (3) リハビリテーションの種類と特徴							講義・田邊		
2	チームで取り組むリハビリテーション (1) チームケアの必要性 (2) チーム間の連携の在り方							講義・角山		
3	リハビリテーションにおける評価 (1) リハビリテーション医療における到達目標と評価 (2) 障害の評価							講義・菊池		
4	障害・症状別リハビリテーションの実際 (1) 内部障害：呼吸器・心疾患のリハビリテーション							講義・菊池		
5	(2) 身体機能障害：脳血管障害のリハビリテーション (リハビリの実際)							講義・菊池		
6	(3) 身体機能障害：脳血管障害のリハビリテーション (高次脳機能障害を含む)							講義・田邊		
7	(4) 在宅でのリハビリテーション							講義・田邊		
8	単位認定試験と解説									
教科書	系統看護学講座 リハビリテーション看護 医学書院									
参考文献										
備考										

領域	専門基礎分野	科目	公衆衛生学		担当	萩原 潤		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
萩原 潤		大学院及び専門学校で講義担当						
到達目標		公衆衛生の概念と歴史を学び、生活者の健康保持・増進のための公衆衛生活動を理解する。保健衛生行政や疾病の疫学と予防について理解する。						
授業概要		環境と人との関わりや、保健統計などによる現在の社会の状態を学んだ上で、健康にとって有害な要因を取り除くための社会に取り組みについて学習する。						
学習者への期待 (含む準備学習)		自分が所属する自治体のこと、そして自身の周りにある健康や保健に関する社会的な取り組みを調べてみるように。						
回数	授業内容						授業方法	
1	公衆衛生の概念と歴史		公衆衛生の活動対象				講義	
2	公衆衛生のしくみ		環境と健康1				講義	
3	環境と健康 2						講義	
4	感染症とその予防策		国際保健				講義	
5	地域保健 1						講義	
6	地域保健 2						講義	
7	学校と健康	職場と健康	健康危機管理・災害保健				講義	
8	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生 医学書院						
参考文献		鈴木庄亮ほか「シンプル衛生公衆衛生学」南光堂、「国民衛生の動向」厚生労働統計協会						
備考								

領域	専門基礎分野	科目	社会保障		担当	村山 くみ				
開講年次	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法				
2年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
村山 くみ		大学生福祉関連科目担当								
到達目標		社会保障制度・社会福祉制度は、医療福祉の総合的サービスの供給体制における連携が重要である。保健・医療・福祉チームの一員として対象生活へのトータルケアマネジメントの視点を持ち、その役割と機能を学ぶ。								
授業概要		講義では、社会保障制度の変遷や仕組みについて学び、多様なニーズに対応するための保健・医療・福祉の連携の在り方について理解を深める。								
学習者への期待 (含む準備学習)		予習：次回の授業内容を確認のうえ、テキストの該当箇所を読み、疑問点等を調べておく。 復習：授業で使用したプリントやテキストを読み返し、重要事項等をまとめる。								
回数	授業内容					授業方法				
1	現代社会と社会保障					講義				
2	日本における社会福祉の発達					講義				
3	社会保障の財政と社会福祉の実施体制					講義				
4	医療保障制度					講義				
5	介護保険制度					講義				
6	所得保障制度					講義				
7	生活保護制度					講義				
8	単位認定試験と解説									
教科書		守本とも子 編「看護職をめざす人の社会保障と社会福祉」みらい								
参考文献		系統監護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院								
備考										

領域	専門基礎分野	科目	社会福祉		担当	村山 くみ				
開講年次	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法				
2年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
村山 くみ		大学生福祉関連科目担当								
到達目標		社会福祉制度は、医療福祉の総合的サービスの供給体制における連携が重要である。保健・医療・福祉チームの一員として対象生活へのトータルケアマネジメントの視点を持ち、その役割と機能を学ぶ。								
授業概要		講義では、社会福祉制度の変遷や仕組みについて学び、多様なニーズに対応するための保健・医療・福祉の連携の在り方について理解を深める。								
学習者への期待 (含む準備学習)		予習：次回の授業内容を確認のうえ、テキストの該当箇所を読み、疑問点等を調べておく。 復習：授業で使用したプリントやテキストを読み返し、重要事項等をまとめる。 その他：福祉に関するさまざまなニュースに目を通すよう心掛ける。								
回数	授業計画					授業方法				
1	現代社会と社会福祉	社会福祉の実施体制			講義					
2	児童家庭福祉				講義					
3	障害者福祉				講義					
4	高齢者福祉				講義					
5	地域福祉				講義					
6	ソーシャルワーク実践				講義					
7	保険医療と福祉の連携				講義					
8	単位認定試験と解説									
教科書		守本とも子 編「看護職をめざす人の社会保障と社会福祉」みらい								
参考文献		系統監護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院								
備考										

領域	専門分野		科目	臨床看護援助論		担当	飯牟禮 明子 鈴木 美佐子	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	前期	1単位	15時間	8回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	50%
							態度	20%
							レポート課題	30%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
飯牟禮 明子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。						
鈴木 美佐子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。						
到達目標		臨床を想定した場面で、対象に生じた症状のアセスメントから必要な看護が実践できる。						
授業概要		これまで学んだ基本的な看護技術の知識・技術を使い、事例をアセスメントし、対象に必要な看護援助を考える。卒業時到達目標に向け臨床看護の場で実践できるよう、状況に応じた援助方法を学ぶ。						
学習者への期待 (準備学習含む)		授業を理解するために、既習科目を復習しながら事前・事後課題に取り組むこと。 演習では、手順や留意点、イメージトレーニングを行い、主体的に演習に臨むこと。 既習の看護技術の講義内容をよく復習し、課題を提出すること。 演習での気づきを事後課題にまとめ、学びを整理しながら学習をすすめること。						
回数	単元		授業内容				授業方法・担当	
1	より良い看護実践、 臨床判断能力		より良い看護実践、臨床判断能力 「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」をもとに、講義、 演習、実習で体験した看護方法（技術）から課題を見出す シュミレーション学習の進め方、学習内容、事例の提示				講義	
2	「胸痛」		事例を展開し、シュミレーターを活用したフィジカルアセスメント、 グループワーク				講義・演習	
3			状態に応じた看護援助の実施、発表、振り返り				講義・演習	
4	「腹痛」		事例を展開し、シュミレーターを活用したフィジカルアセスメント、 グループワーク				講義・演習	
5			状態に応じた看護援助の実施、発表、振り返り				講義・演習	
6	「浮腫」		事例を展開し、シュミレーターを活用したフィジカルアセスメント、 グループワーク				講義・演習	
7			状態に応じた看護援助の実施、発表、振り返り				講義・演習	
8	単位認定試験と解説							
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 (基礎看護学④) 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ (基礎看護学③) 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ (基礎看護学③) 医学書院 小松浩子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院							
参考文献	1 アセスメントに自信がつく 臨床推論入門 2 山内先生のフィジカルアセスメント 患者さんのサインを読み取る！症状編							

領域	専門分野		科目	地域療養を支えるケア		担当	伊藤 明美 笹原 恵子			
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
2年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	レポート	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
伊藤 明美		臨床での内科、外科系、訪問看護STでの訪問看護実践経験、及びケアマネジャーの経験有す								
笹原 恵子		臨床看護実践経験を有す								
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> 訪問看護の制度と機能を理解し、訪問看護ステーションをはじめとする訪問看護の提供方法について、説明できる。 療養者と家族への看護支援の基本となる在宅看護過程の目的や方法について、説明できる。 在宅看護における危機管理の原則と基本を理解でき、日常生活の場で発生する可能性のある事故や問題に対する予防策を考えることができる。 								
授業概要		在宅看護の対象者の特性と支援のあり方ならびにその支援の基盤となる訪問看護制度及び看護過程の特徴を学ぶ。更に、日常生活の場で発生する可能性のある事故や感染症、災害などについて学び、安全と健康危機管理が重要であることを学ぶ。								
学習者への期待 (準備学習含む)		在宅看護は対象者と家族の意思決定を尊重して行わなければならない。又あらゆる看護領域の既習・知識技術が基本となる。関連領域の振り返りを行ったうえで、在宅で行える範囲の視点を持ちながら学んでほしい。								
回数	項目		授業内容				授業方法			
1	5. 在宅療養を支える 訪問看護		1. 訪問看護の特徴 1) 訪問看護とは2) 訪問看護の制度と現状3) 訪問看護の提供と種類 2. 在宅ケアを支える訪問看護ステーション 1) 訪問看護ステーション ～ 9) 訪問看護制度の課題				講義(笹原)			
2			3. 訪問看護サービスの展開 1) 訪問看護における看護過程の特徴 2) 訪問看護過程の実際 4. 訪問看護の記録 1) 訪問看護記録の意義 2) 訪問看護で使用する記録 3) 訪問看護記録を記入するときの留意点 5. 事例:療養場所の移行や病状の変化に応じた訪問看護				講義(笹原)			
3			5. 事例:療養場所の移行や病状の変化に応じた訪問看護 ・事例をフェイスシートにまとめ、学んだ事柄とどう関連している話し合う				講義/(伊藤) グループワーク			
4	6. 在宅看護における安全と 危機管理		1. 在宅看護における危機管理 1) 在宅療養の場で起こりえる事務の予防と対応 2) 在宅医療におけるリスクの特徴 2. 日常生活における安全管理 1) 家屋環境の整備～7) 閉じこもり予防				講義(伊藤)			
5			3. 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理 1) 在宅療養者・家族への防災・減災対策の指導 2) 医療機関との連携による医療上の健康危機管理 3) 福祉機関との連携による生活上の健康危機管理 4) 行政との連携				講義(伊藤)			
6			4. 事例:ALSの在宅療養者と災害対策 2) 発災時の課題と対応 3) 災害時個別支援計画 ・事例とその対策の根拠を話し合う				講義/(伊藤) グループワーク			
7	8. 地域・在宅看護の動向と 今後の発展		1. 在宅看護の先駆的取り組み 1) 海外の在宅ケアの特徴と共通性 2) ヨーロッパの在宅ケア:ドイツを例にして 3) 大規模な在宅ケア:米国の例 4) 大規模な在宅ケア:オランダの例 ・地域・在宅看護における事例検討会の意義について理解する				講義(伊藤)			
8	単位認定試験と解説									
教科書		ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版 地域・在宅看護論 在宅療養を支える技術								
参考文献		新体系看護全書 地域・在宅看護論 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 地域・在宅看護論 医学書院								
備考										

領域	専門分野		科目	在宅療養を支える技術 I		担当	伊藤 明美 藤原 恵理香			
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
2年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	レポート	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
伊藤 明美		臨床での内科、外科系、訪問看護STでの訪問看護実践経験、及びケアマネジャーの経験有する。								
藤原 恵理香		保健師の資格を持ち、急性期・慢性期病棟で臨床看護実践経験を有する。								
到達目標		1) 訪問看護における看護過程の特徴、家庭訪問および初回訪問のプロセスを理解できる。 2) 在宅療養を支えるコミュニケーションの姿勢及び障害の特徴に応じた支援技術を考えることができる。 3) 在宅療養におけるヘルスアセスメントの必要性とその方法を説明できる。 4) 療養環境が健康に及ぼす影響を説明することができる。 5) 在宅療養の場における生活リハビリテーションの意義を理解し、状況に応じた支援について説明できる。 6) 在宅ケアにおけるスタンダードプリコーションの方法と感染症発症時のケアの意義とその方法を説明できる。 7) ターミナル期における24時間体制でのサポートの必要性、他職種のチームケアの必要性を説明できる。								
授業概要		家庭訪問の意義を理解し、手順、倫理と心構え、リスクマネジメントについて学ぶ。更に、初回訪問は、対象者との出会いの場であり、今後の看護の方針を決めるために大切であり、コミュニケーション技術が大切であることを学ぶ。、在宅における日常生活援助ならびに医療的援助における基本的なアセスメントや援助技術の具体的展開方法を学ぶ。								
学習者への期待 (準備学習含む)		在宅では、療養者の生活環境そのものが療養に影響する。したがって、療養者の生活と医療の観点を両立させながら環境を整える大切さを学び、在宅療養生活を脅かす事故や感染症、災害などを挙げ、その発生子防や常日頃から備えることなど実際の場面を踏まえて学んでほしい。								
回数	項目		授業内容				授業方法			
1	1. 訪問看護技術		1. 家庭訪問・初回訪問 1) 家庭訪問の意義・目的 ～ 6) 学生実習における同行訪問 2. 在宅療養における看護過程の展開技術 1) 在宅療養における看護過程の特徴～ 4) 在宅療養における看護過程の展開ポイント				講義			
2			5) 事例:療養場所の移行や病状の変化に応じた訪問看護 ・関連図を用いて事例のアセスメントを行い、看護目標と看護課題を明確にする ・上記についてその根拠をグループで話し合う				講義/ グループワーク			
3	2. 在宅療養生活を支える 基本的な技術		1. コミュニケーション 1) 在宅療養を支えるコミュニケーションの基本 2) コミュニケーション障害と支援 3) コミュニケーション障害のある療養者の特徴と支援ポイント				講義			
4			・演習:透明文字盤を使ったコミュニケーション ・コラム:ユマニチュード (DVD) ・障害に応じたコミュニケーションツールについて調べ、支援方法を話し合う				講義/DVD グループワーク			
5			2. 在宅におけるアセスメント技術 1) ヘルスアセスメントの基本 2) 生活からみるヘルスアセスメント 3) 身体状態のアセスメント 3. 環境整備 1) 在宅療養環境の基本～6) 環境整備に活用できる社会資源				講義			
6			4. 生活リハビリテーション 1) 生活リハビリテーションの基本 2) 障害や状態に応じた生活リハビリテーション 3) 在宅移行に向けての環境整備 5. 感染予防 1) 在宅における感染防止の基本～4) 感染症流行期・地域における訪問看護				講義/DVD			
7			6. ターミナルケア 1) ターミナルケアの基本～ 7) 悪性新生物(がん)により死を迎える療養者へのケア				講義/DVD			
8	単位認定試験と解説									
教科書		ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版 地域・在宅看護論 在宅療養を支える技術								
参考文献		新体系看護全書 地域・在宅看護論 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 地域・在宅看護論 医学書院								
備考										

領域	専門分野	科目	在宅療養を支える技術Ⅱ			担当	伊藤明美 藤原恵理香 小林 透				
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法					
2年次	後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	90%	レポート	10%	
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験									
伊藤 明美		臨床での内科、外科系、訪問看護STでの訪問看護実践経験、及びケアマネジャーの経験有する。									
藤原 恵理香		保健師の資格を持ち、急性期・慢性期病棟で臨床看護実践経験を有する。									
小林 透		臨床看護実践経験を有する。									
到達目標		1. 対象特性に応じたアセスメントができる。 2. 療養者の状況に応じた在宅看護の特異的なケアを具体的に実施できる。 3. 在宅における療養者とその家族の生活上の課題を検討できる。 4. 在宅での医療的ケアにおいて、各項目についてアセスメントや援助技術の基本を理解できる。 5. 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を検討できる。									
授業概要		在宅における日常生活援助ならびに医療的援助における基本的なアセスメントや援助技術の具体的展開方法を学ぶ。また、さまざまな事例から、療養者と家族、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際を学び、既存の看護の知識を応用し、在宅看護の実際に関わり付ける。									
学習者への期待 (準備学習含む)		在宅で生活される方も、病院で行われている医療的な治療(処置)を継続されている方が多く、病院では看護師が行っているケアを在宅では家族が行うことになる。そのため、在宅では療養生活が継続できるかどうかの鍵は家族にあるといえる。在宅看護では療養者だけでなく、家族も生活を営んでいる生活者であるという視点を持ち学んでほしい。									
回数	項目	授業内容				授業方法					
1	3. 日常生活を支える 看護技術	1. 生活ケアと医療的ケア 2. 生活ケアの援助技術 3. 医療ケアの原理原則				講義(藤原)					
2		4. 食生活 食のアセスメントと援助				講義(藤原)					
3		5. 在宅経管栄養法 6. 液管理				講義(藤原)					
4		7. 経管栄養 演習				演習(藤原)					
5		8. 呼吸 呼吸のアセスメントと援助 9. 肺痰ケア 10. 気管カニューレ管理				講義/DVD(藤原)					
6		11. 在宅酸素療法(HOT)				講義/DVD(藤原)					
7		12. 在宅人工呼吸法(HMV) ・非侵襲的陽圧換気療法 ・気管切開下間欠的陽圧換気療法				講義/DVD(藤原)					
8		13. 排泄 排泄のアセスメントと援助(日常生活を支える看護技術)				講義(藤原)					
9		14. 排尿ケア 15. ストーマ管理				講義/DVD(藤原)					
10		4. 療養を支える看護技術 (医療)	16. 薬物療法 17. がん外来化学療法 18. 疼痛管理				講義(藤原)				
11			19. 睡眠 20. 清潔と更衣(清潔のアセスメントと援助) の保持と移動(移動のアセスメントと援助)				21. 肢位	講義			
12			22. 排尿ケア清潔と更衣、肢位の保持と移動(演習)				演習				
13			23. 在宅CAPD インスリン自己注射管理				24.	講義			
14		25. 褥瘡管理 変のケア				26. 足病	講義				
15	まとめ	単位認定試験				試験					
15	単位認定試験と解説										
教科書		ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版 地域・在宅看護論 在宅療養を支える技術									
参考文献		新体系看護全書 地域・在宅看護論 メヂカルフレンド社 / 系統看護学講座 地域・在宅看護論 医学書院									
備考											

領域	専門分野		科目	在宅療養を支える技術Ⅲ		担当	伊藤明美 藤原恵里香			
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
2年次	後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	70%	レポート	30%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
伊藤 明美		臨床での内科、外科系、訪問看護STでの訪問看護実践経験、及びケアマネジャーの経験有する。								
藤原 恵理香		保健師の資格を持ち、急性期・慢性期病棟で臨床看護実践経験を有する。								
到達目標		1. 在宅における療養者とその家族の生活上の課題を検討できる。 2. 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を検討できる。 3. 療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現するためのケアマネジメントの展開について検討できる。								
授業概要		さまざまな事例から、療養者と家族、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際を学び、既存の看護の知識を応用し、在宅看護の実践に結び付けることができる。また、さまざまな事例を通して在宅看護過程の展開について学ぶ。そして、看護過程の展開時には社会資源の活用について、多職種との連携、看護師の果たす役割について、講義、グループワークを通して学ぶ。								
学習者への期待 (準備学習含む)		在宅看護は、対象者と家族の尊厳ある生活を支える個別ケアである。プライバシーを守ることや、あらゆることの意味決定を尊重すること、観察と判断など看護師により高い資質が求められる。あらゆる看護領域の既習・知識・技術が基本となるため、振り返りを行ったうえで臨んでほしい。								
回数	項目		授業内容				授業方法			
1	5. 在宅療養を支える健康危機・災害対策		1. 在宅療養における健康危機・災害対策				講義(藤原)			
2			2. 地域包括ケアシステムにおける健康危機・災害対策 3. 訪問看護師による健康危機・災害時対応							
3	6. 事例で学ぶ在宅看護技術		1. 療養の移行に伴う看護 1) 脳卒中を起こした患者の在宅療養導入の事例展開				講義(伊藤)			
4			1. 療養の移行に伴う看護 ・実際の事例から退院支援及び介護保険制度などについて振り返る				個人ワーク/DVD(伊藤)			
5			2. 在宅での自己管理を続けている糖尿病のある独居高齢者 1) インスリン自己注射を確実に安全に継続できる支援を検討 ・事例のアセスメントを行い、必要な支援を考える				講義/個人ワーク(伊藤)			
6			3. 在宅療養を開始する重症心身障害児(小児) 1) 在宅ける療養者とその家族の生活上の課題を検討 ・ワークシートを用いて事例の振り返りを行う				講義/DVD(伊藤) 個人ワーク			
7			4. パーキンソン病療養者の在宅看護過程 1) 転倒リスクが高いが家族介護者が高齢で対応できない人への支援 2) アセスメント 3) 課題の明確化 4) 長期目標・短期目標 ・パーキンソン病の疾患を理解し、在宅での自立支援について考える 3) 訪問看護での医療保険と介護保険の調整(制度を振り返る)				講義/個人ワーク(伊藤)			
8							講義/(伊藤) グループワーク			
9			5. 在宅で療養する筋萎縮性側索硬化症患者の看護 1) 紙上事例及び実際の映像を通し意思決定支援の大切さを学ぶ 2) カンファレンス				講義/DVD(伊藤) グループワーク			
10			7. 訪問看護実習		演習 テーマ: 初回訪問 1) 事例 脳梗塞 左不全麻痺のアセスメント ・訪問看護師としてのマナー(社会人としてのマナーも含む)に留意しながら、訪問看護師の「訪問看護」導入のプロセス行動を理解する				DVD/個人ワーク(伊藤)	
11	演習 テーマ: 初回訪問 2) ロールプレイの脚本作成、初回訪問計画作成				グループワーク(伊藤)					
12										
13	演習 テーマ: 初回訪問 4) リハーサル				発表会(伊藤)					
14	演習 テーマ: 初回訪問 4) 演習									
15	単位認定試験									
教科書		ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版 地域・在宅看護論 在宅療養を支える技術								
参考文献		新体系看護全書 地域・在宅看護論 メヂカルフレンド社 / 系統看護学講座 地域・在宅看護論 医学書院								
備考										

領域	専門分野Ⅱ		科目	成人看護学援助論Ⅰ		担当	高野 岳史 飯牟禮 明子 内田 祝子	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	100%	
担当者名		担当講義に関する実務経験						
高野 岳史		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。						
飯牟禮 明子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。						
内田 祝子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。						
達成目標		消化器系機能障害・内分泌代謝系に機能障害をもつ成人およびその家族の看護について理解できる。また、手術療法における生体反応や術後合併症について理解できる。						
授業概要		系統別に消化器系機能障害・内分泌代謝系に機能障害をもつ対象への看護について、それぞれの主な疾患の症状、検査、治療を理解し、対象にとって日常生活に及ぼす影響や生活調整・自己管理に向けた援助について学ぶ。また、手術療法における生体反応や術後合併症について学ぶ。						
学習者への期待		成人看護援助論は看護実践能力を養うことを目標にし、基本から積み重ねた学習が必要となる。1年次の「人体の構造と機能学」「病態治療学」「成人看護概論」の復習をし、常に“何故”という問題意識をもって積極的に授業に臨んでほしい。						
回数	単元			授業内容		授業方法・担当		
1	内分泌・代謝系に障害のある対象の看護			内分泌・代謝系に障害を持つ対象の特徴と看護の役割 内分泌・代謝系疾患の全体像		高野 講義		
2				視床下部・下垂体疾患を持つ患者の看護 甲状腺・副甲状腺疾患を持つ患者の看護				
3				副腎疾患を持つ患者の看護 性腺他疾患を持つ患者の看護				
4				代謝疾患（糖尿病他）を持つ患者の看護				
5	消化器系に障害のある対象の看護			消化器系に障害を持つ対象の特徴と看護の役割 消化器系疾患の全体像		高野 講義		
6				食道疾患を持つ患者の看護				
7				胃疾患を持つ患者の看護				
8				胆・膵疾患を持つ患者の看護				
9				肝疾患を持つ患者の看護－1				
10				肝疾患を持つ患者の看護－2				
11	腸疾患を持つ患者の看護							
12	手術を受ける患者の看護			急性期・周手術期看護ガイダンス 手術前・中の看護		内田 講義		
13				手術後看護－1 生体侵襲と生体反応 手術後合併症とその予防				
14				手術後看護－2 創傷治癒過程 回復促進へ向けての看護				
15	単位認定試験 講義まとめ							
教科書		1. 系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 医学書院 [5] 消化器 [6] 内分泌・代謝 2. 矢永勝彦・小路美喜子編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 3. 北島政樹・江川幸二編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 4. 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 5. 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 6. 高齢者と成人の周手術期看護3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護						
参考文献		随時提示						

領域	専門分野Ⅱ	科目	成人看護学援助論Ⅱ		担当	鈴木 晴美 飯牟禮 明子 三上 勝子	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験					
鈴木 晴美		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。					
飯牟禮 明子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。					
三上 勝子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。					
達成目標		呼吸器系機能障害・脳神経系機能障害・運動器系機能障害をもつ成人およびその家族の看護について理解できる。					
授業概要		系統別に呼吸器系機能障害・脳神経・運動器系機能障害をもつ対象への看護について、それぞれの主な疾患の症状、検査、治療を理解し、対象にとって日常生活に及ぼす影響や生活調整・自己管理に向けた援助について学ぶ。					
学習者への期待		成人看護援助論は看護実践能力を養うことを目標にし、基本から積み重ねた学習が必要となる。1年次の「人体の構造と機能学」「病態治療学」「成人看護概論」の復習をし、常に“何故”という問題意識をもって積極的に授業に臨んでほしい。					
回数	単元		授業内容			授業方法・担当	
1	呼吸器系に障害のある 対象の看護		呼吸器系に障害を持つ対象の特徴と看護の役割			鈴木 講義	
2			呼吸器の症状・アセスメント・看護				
3			呼吸感染症、慢性閉塞性肺疾患の患者の看護				
4			肺癌・肺切除術を受ける患者の看護				
5			気胸・胸腔ドレーンを挿入している患者の看護				
6	脳・神経系に障害のある 患者の看護		脳・神経系に障害をもつ対象の特徴と看護の役割			飯牟礼 講義	
7			脳・神経の症状・検査・アセスメント・看護				
8			脳疾患をもつ患者の看護－1				
9			脳疾患をもつ患者の看護－2				
10			脳・神経系の感染症の患者の看護				
11			脱髄・変性疾患と末梢神経障害をもつ患者の看護				
12	運動器に障害のある 患者の看護		運動器系に障害をもつ対象の特徴と看護の役割			三上 講義	
13			運動器の症状・検査・アセスメント・看護				
14			外因性・内因性の運動器疾患をもつ患者の看護				
15	単位認定試験 講義まとめ						
教科書		1. 系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 医学書院 [2]呼吸器 [7]脳・神経 [10]運動器 2. 矢永勝彦・小路美喜子編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 3. 北島政樹・江川幸二編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 4. 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 5. 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 6. 高齢者と成人の周手術期看護3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護					
参考文献		随時提示					

領域	専門分野Ⅱ	科目	成人看護学援助論Ⅲ			担当	内田 祝子 鈴木 晴美 三上 勝子
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験					
内田 祝子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。					
鈴木 晴美		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。					
三上 勝子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。					
達成目標		循環器系・腎泌尿器系・血液造血器系の機能障害およびアレルギー・膠原病・感染症をもつ成人およびその家族の看護について理解できる。					
授業概要		系統別に循環器系・腎泌尿器系・血液造血器系の機能障害およびアレルギー・膠原病・感染症をもつ対象への看護について、それぞれの主な疾患の症状、検査、治療を理解し、対象にとって日常生活に及ぼす影響や生活調整・自己管理に向けた援助について学ぶ。					
学習者への期待		成人看護援助論は看護実践能力を養うことを目標にし、基本から積み重ねた学習が必要となる。1年次の「人体の構造と機能学」「病態治療学」「成人看護概論」の復習をし、常に“何故”という問題意識をもって積極的に授業に臨んでほしい。					
回数	単元		授業内容			授業方法・担当	
1	循環器系に障害のある患者の看護		循環器障害をもつ対象の特徴と看護の役割 冠動脈疾患と症状、アセスメント、看護			内田 講義	
2			ペースメーカー挿入する患者の看護				
3			弁膜症をもつ患者の看護				
4			心不全をもつ患者の看護				
5			血管系に障害をもつ患者の看護				
6			心臓手術（開胸術）を受ける患者の看護				
7	腎・泌尿器系に障害のある患者の看護		腎・泌尿器系に障害のある患者の特徴と看護			鈴木 講義	
8			主な症状の観察とアセスメント				
9			検査・治療を受ける患者への看護				
10			腎機能障害をもつ患者の看護				
11	血液・造血器系に障害のある患者の看護		血液・造血器系に障害のある患者の特徴と看護			三上 講義	
12			主な症状の観察とアセスメント				
13	アレルギー・膠原病・感染症のある患者の看護		アレルギー・膠原病・感染症のある患者の特徴と看護				
14			主な症状の観察とアセスメント				
15	単位認定試験 講義まとめ						
教科書		1. 系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 医学書院 [3] 循環器 [4] 血液・造血器 [8] 腎泌尿器 [11] アレルギー・膠原病・感染症器 2. 矢永勝彦・小路美喜子編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 3. 北島政樹・江川幸二編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 4. 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 5. 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 6. 高齢者と成人の周手術期看護3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護					
参考文献		随時提示					

領域	専門分野Ⅱ		科目	成人看護学援助論Ⅳ		担当	鈴木 晴美 内田 祝子 三上 勝子 斎藤 恵理 飯牟礼 明子	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態			
2年次	後期	1 単位	30時間	15回	講義・演習	レポート 演習態度	80% 20%	
担当者名		担当講義に関する実務経験						
鈴木 晴美		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。						
内田 祝子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。						
三上 勝子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。						
斎藤 恵理		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。						
飯牟礼 明子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。						
到達目標		成人期における対象者が最良の健康状態を維持するために、実在または顕在する健康問題や健康問題が与える生活への影響を考え系統的で意図的な手段や方法について理解できる。 紙上事例を通して急性期および周手術期にある患者・家族の看護過程を展開できる。						
授業概要		成人期における対象者が最良の健康状態を維持するために、実在または顕在する健康問題や健康問題が与える生活への影響を考え系統的で意図的な手段や方法について、事例を通して一連の思考過程を学習する。						
学習者への期待		アセスメントするために病態や症状、生体反応など既習科目の復習や事前学習を行い授業に臨む。また、臨地実習を意識し記録が遅れないよう真剣に看護過程の展開に取り組んでほしい。						
回数	単元		授業内容				授業方法・担当	
1	周手術期の 看護過程展開の実際		1) ガイダンス 2) 周手術期の特徴を踏まえた展開の方法 3) 事例紹介				講義 演習	
2 3			1) 術前：情報の整理、分析・解釈					
4 5			2) 術前：統合（検証、仮診断から確定診断）、確定診断、 看護目標、看護計画作成					
6 7			3) 関連図の作成					
8 9			5) 術後：情報の整理、アセスメント、仮診断、					
10 11			6) 術後：関連図、統合、優先順位、確定診断					
12 13			7) 術後：看護目標の設定方法、看護計画立案					
14			8) 評価の考え方と記録方法（SOAP）					
15	看護過程のまとめ							
教科書		1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学2 2. NANDA-I看護診断（第11版）2021-2023 医学書院 3. 小松浩子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院 4. 矢永勝彦・小路美喜子編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 5. 北島政樹・江川幸二編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 6. 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 7. 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 8. 高齢者と成人の周手術期看護3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護						
参考文献		1. 江川隆子編集：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 2. 黒田裕子監修：看護診断のためのよくわかる中範囲理論（第2版）学研						

領域	専門分野Ⅱ		科目	成人看護学援助論Ⅴ		担当	鈴木 晴美 飯牟礼 明子 斎藤 恵理	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	後期	1 単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験 演習態度	70% 30%	
担当者名		担当講義に関する実務経験						
鈴木 晴美		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。						
飯牟礼 明子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。						
斎藤 恵理		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。						
到達目標		がんの特殊性を多角的に捉え、患者・家族のQOLを高め、患者と家族が主体的に生きるための看護支援、人生の最期の時を支える看護について理解する。 急激健康破綻をきたした患者・家族の心身の苦痛やストレス・危機状況を多面的に理解し、生命の危機的状況に働きかける看護能力を養う。						
授業概要		がんや終末期にある成人・家族に対して生活を支える看護援助方法について学習する。 急激に健康破綻をきたした患者・家族の心身の苦痛やストレス・危機状況を多面的に理解し、心身の侵襲に伴う変化への対応と回復への適応がはかれる看護技術について学習する。						
学習者への期待		これまで学習した基礎看護学・病態治療学・成人看護学概論・成人看護学援助論で学んだ知識と技術を想起させ関連づける。また、演習へは集中力と緊張感をもって積極的に臨んでほしい。						
回数	単元		授業内容				授業方法・担当	
1	がん看護		がんの特殊性、予防・早期発見・患者のQOL、倫理的問題				鈴木 講義	
2			がん治療に対する看護					
3			がん看護-1					
4			がん看護-2					
5	急性機能不全患者の看護		救急看護				斎藤 講義	
6			集中治療室の看護					
7 8	急性期・周手術期の看護技術		急性期・周手術期技術演習ガイダンス 手術後の観察、観察方法、観察後の報告				飯牟礼 講義 演習	
9 10			呼吸・循環状態・意識状態などの観察、アセスメント					
11 12			呼吸器合併症の予防技術・早期離床の促進技術					
13 14	看護技術のまとめ		急性期の看護・看護技術（演習）のまとめ 看護計画の評価の書き方・実際					
15	単位認定試験 講義まとめ							
教科書		1. 山勢博彰・山勢善江他編集：系統看護学講座 別巻 救急看護学 2. 小松浩子他：系統看護学講座 別巻 がん看護学 3. 矢永勝彦・小路美喜子編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 4. 北島政樹・江川幸二編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 5. 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 6. 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 7. 高齢者と成人の周手術期看護3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護						
参考文献		随時提示						

領域	専門分野		科目	老年看護学援助論 I		担当	吉村 裕子			
開講年次	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法				
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	80%	レポート	20%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
吉村 裕子		急性期病棟での看護実践経験あり								
到達目標		1 老年者の日常生活上における援助ニーズを理解できる。 2 老年者の特性をふまえた援助方法を理解できる。 3 老年者のQOL向上を目指した健康増進プログラムを理解できる。								
授業概要		加齢変化、疾患、障害を関連してとらえ、基本動作を基盤とした生活行為と生活リズムの援助技術を学ぶ。								
学習者への期待 (含む準備学習)		老化に伴う生理的变化と疾患とのつながりを理解し予防的な関わりについて学んでほしい。								
回数	項目		授業内容						授業方法	
1	4章 高齢者のヘルスアセスメント		A ヘルスアセスメントの基本						講義	
2			B 身体に加齢変化とアセスメント (皮膚・視聴覚)						講義	
3			(循環系・呼吸系・消化器系・ホルモン・泌尿生殖器系・運動系)						講義	
4	5章 高齢者の生活機能を整える看護		A 日常生活を支える基本的活動 (基本動作と環境)						講義	
5			〃 (転倒・廃用症候群のアセスメントと看護)						講義	
6			B 食事・食生活 アセスメントと看護						講義	
7			口腔の変調・嚥下機能 (とろみ剤の使用)						講義/演習	
8			C 排泄 アセスメントと看護						講義	
9			排泄障害 (臥位・立位でのおむつ交換)						講義/演習	
10			D 清潔 アセスメントと看護						講義	
11			清潔のケア						講義	
12			E 生活リズム アセスメントと看護						講義	
13			F コミュニケーション アセスメントと看護						講義	
14	G セクシャリティ・社会参加						講義			
15	単位認定試験と解説									
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 生活機能からみた看護過程 医学書院								
参考文献										
備考										

領域	専門分野		科目	老年看護学援助論Ⅱ		担当	高橋 さくら (22) 桐田 三世 (8)	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
高橋 さくら		急性期・慢性期病棟・老年領域で看護実践経験あり						
桐田 三世		急性期病棟で看護実践経験あり						
到達目標		1 高齢者に特有な健康障害が理解できる。 2 健康障害に応じた援助方法が理解できる。						
授業概要		老年特有な疾患理解とともに、生活障害や合併症・二次障害を踏まえ、どのような場面でどのような看護が実践されているのかを学ぶ。						
学習者への期待 (含む準備学習)		老化や生活習慣などによってどのような疾患がおきやすいか、予防も含め必要な看護を学んでほしい。						
回数	項目		授業内容				授業方法	
1	高齢者特有の症候のアセスメントと看護		発熱・痛み				講義 高橋	
2			掻痒・脱水				講義 高橋	
3			嘔吐・浮腫・倦怠感				講義 高橋	
4			褥瘡				講義 高橋	
5	老年特有の疾患を持つ高齢者への看護		脳卒中 心不全 パーキンソン病・パーキンソン症候群 慢性閉塞性肺疾患 インフルエンザ 肺炎 骨粗鬆症 骨折				講義 高橋	
6							講義 高橋	
7							講義 高橋	
8							講義 高橋	
9							講義 高橋	
10	認知機能障害のある高齢者の看護		うつ せん妄 認知症				講義 高橋	
11	治療を要する高齢者の看護		検査時の看護 薬物療法時の看護				講義 桐田	
12			手術時の看護 リハビリ時の看護				講義 桐田	
13	エンド・オブ・ライフケア		エンド・オブ・ライフケアの概念 「生ききる」ことを支えるケア 意思決定への支援 末期段階に求められる援助				講義 桐田	
14	生活・療養の場における看護の展開		介護予防 介護サービス 家族への援助				講義 桐田	
15	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 生活機能からみた看護過程 医学書院						
参考文献		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院						
備考								

領域	専門分野	科目	老年看護学援助論Ⅲ			担当	吉村 裕子 (4) 高橋 さくら (12)		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	後期	1単位	15時間	8回	講義・演習	看護過程 レポート	70%	アクティビティ評価	30%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験							
高橋 さくら		急性期・慢性期病棟・老年領域で看護実践経験あり							
吉村 裕子		急性期病棟での看護実践経験あり							
到達目標		1 事例を基に健康障害をもつ老年者の看護問題を理解する。 2 事例を基に健康障害をもつ老年者の看護過程を展開する基礎的能力を養う。							
授業概要		生活機能をもとにアセスメントし実践場面で応用できる思考を養うために、高齢者の特徴的な事例について学習する。							
学習者への期待 (含む準備学習)		事例をもとに、生活機能重視の高齢者の「もてる力」を引き出し、老化による廃用症候群の予防を組み込んだ看護計画を立案できるようになってほしい。							
回数	項目	授業内容				授業方法・担当			
1	看護過程の展開	看護過程 高齢者の特徴を活かした看護過程の考え方 (1) ゴードンによる機能的健康パターンについて 事例紹介・看護展開の進め方				講義 高橋			
2	「大腿骨頸部骨折の高齢者」看護過程の展開	(2) 情報とカテゴリー分類 アセスメントと仮診断				講義・演習 高橋			
3		(3) 関連図 看護診断				演習 高橋			
4		(4) 看護計画作成 (GW)				演習 高橋			
5		(5) 看護計画発表				演習 高橋			
6		(6) アクティビティ企画 (GW)				演習 吉村・高橋			
7		(7) アクティビティ発表				演習 吉村・高橋			
8		学習のまとめ	もてる力を引き出すケアとは DVD				演習 吉村・高橋		
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 老年看護 病態・疾患論 医学書院 生活機能からみた老年看護過程 医学書院							
参考文献									
備考									

領域	専門分野Ⅱ		科目	小児看護学概論 (看護の対象と理解)		担当	庄司 宗和 大沼 良美	
開講年次	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験	90%	
						レポート	10%	こども観 5% 自分史 5%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
庄司 宗和		小児専門病院での看護実践，看護教員，看護全般にわたる経験を有する。						
大沼 良美		小児専門病院での看護実践，看護教員，看護全般にわたる経験を有する。						
到達目標		子どもの健康的な成長発達過程を学び、それぞれの過程の基本的な理解と子どもや家族を取り巻く社会環境を学びながら、小児看護の役割や課題について理解できる。						
授業概要		小児看護の特徴と倫理についての学習を基に、子どもの成長・発達の特徴と看護について学ぶ。さらに小児看護の対象となる家族を理解し子どもを取り巻く社会について学ぶ。						
学習者への期待 (含む準備学習)		子どもの成長発達の特徴と看護については国家試験にも多く取上げられる重要なところであり、予習して授業に臨んでほしい。						
回数	項目		授業内容				授業方法・担当	
1	小児看護の特徴と理念		小児看護の目的 小児と家族の諸統計				講義・庄司	
2			小児看護の変遷と課題 小児看護における倫理虐待と看護				講義・庄司	
3			こども観とは				演習・庄司	
4								
5	子どもの成長発達		子どもの成長発達と評価				講義・庄司	
6			新生児・乳児期				講義・庄司	
7								
8			幼児期				講義・庄司	
9								
10								
11			学童期・思春期				講義・庄司	
12								
13	家族の特徴とアセスメント		家族とは 現代家族の特徴 家族アセスメント 子どもと家族を取り巻く社会 ・予防接種 ・学校保健				講義・大沼	
14	病気や障害を持つ子どもと家族の看護		病気・障害が子どもと家族に与える影響子どもの健康問題と看護 入院中の子どもと家族の看護外来、在宅療養中の子どもと家族の看護				講義・大沼	
15			単位認定試験 解説				試験・庄司	
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護学概論 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ						
参考文献								
備考								

領域	専門分野Ⅱ		科目	小児看護学援助論Ⅰ		担当	庄司 宗和 大沼 良美	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	70%	
						レポート	30%	プレパレーション10% 技術演習 20%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
庄司 宗和		小児専門病院での看護実践，看護教員，看護全般にわたる経験を有する。						
大沼 良美		小児専門病院での看護実践，看護教員，看護全般にわたる経験を有する。						
到達目標		子どもの健康障害によって生じる諸問題を理解し、それに伴う適切な看護援助方法が理解できる。						
授業概要		子どもを取り巻くさまざまな諸問題に対する適切なアセスメント方法と看護援助方法を学ぶ。						
学習者への期待 (含む準備学習)		1年次に基礎看護学で学んだ、人体構造・機能学、病態治療学について復習し、授業に臨むことを期待する。						
回数	項目		授業内容				授業方法・担当	
1	病気や障害を持つ 子どもと家族の看護		慢性期、急性期にある子どもと家族の看護 障害のある子どもと家族の看護				講義・庄司	
2			周手術期、終末期の子どもと家族の看護					
3	プレパレーション		プレパレーション ・講義、ガイダンス、事例紹介 ・ロールプレイ発表 ・まとめ、総括				演習・庄司	
4								
5								
6	身体のアセスメント 子どもが示す症状と 看護		アセスメントに必要な技術 身体的アセスメント1				講義・大沼	
7			身体的アセスメント2					
8			症状を示す子どもの看護					
9	検査・処置を受ける 子どもの看護		検査、処置時の看護				講義・大沼	
10								
11	小児看護に必要な技術		<ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサインの測定・移動の援助 (抱っこ、ベビーカー) ・身体計測 ・抑制 (おくる身法、点滴の固定方法) ・検査・処置時の看護(座薬、腰椎穿刺) 				演習・大沼	
12								
13								
14								
15	単位認定試験 解説						試験・庄司	
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学2 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディアカ						
参考文献		・疾患別小児看護 中央法規出版						

領域	専門分野Ⅱ		科目	小児看護学援助論Ⅱ		担当	飯沼 一字 庄司 宗和 大沼 良美	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
飯沼 一字		東北大名誉教授・石巻赤十字看護専門学校長 認定NPO法人理事長・小児科専門医・小児神経専門医・てんかん専門医						
庄司 宗和		小児専門病院での看護実践，看護教員，看護全般にわたる経験を有する。						
大沼 良美		小児専門病院での看護実践，看護教員，看護全般にわたる経験を有する。						
到達目標		子どもの疾患とそれらの病態及び治療法について理解し，そこから生じる諸問題への適切な看護援助方法が理解できる。						
授業概要		子どもの疾患やそれらの病態及び治療法，そこから生じる問題に対する看護援助方法を学ぶ。						
学習者への期待 (含む準備学習)		1年次に基礎看護学で学んだ，人体構造・機能学，病態治療学について復習し，授業に臨むことを期待する						
回数	単元		授業内容			授業方法・担当		
1	1. 子どもに関連する疾患の病態と治療		小児科とは・染色体異常・先天異常・新生児			講義・飯沼		
2			免疫疾患・アレルギー性疾患・自己免疫疾患			講義・飯沼		
3			感染症			講義・飯沼		
4			呼吸器疾患・循環器疾患			講義・飯沼		
5			消化器疾患・代謝性疾患・内分泌疾患			講義・飯沼		
6			血液、造血器疾患・悪性新生物			講義・飯沼		
7			腎・泌尿器および生殖器疾患・			講義・飯沼		
8			神経疾患・運動器疾患・精神疾患			講義・飯沼		
9	2. 主な疾患とその子どもの看護		染色体異常・先天異常と看護 代謝性疾患・内分泌疾患・免疫疾患と看護			講義・庄司		
10			呼吸器疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患と看護			講義・大沼		
11			感染症・事故・外傷と看護			講義・大沼		
12			循環器疾患・血液、造血器疾患と看護 消化器疾患・悪性新生物と看護			講義・大沼		
13			腎・泌尿器および生殖器疾患と看護			講義・庄司		
14			神経疾患・運動器疾患・皮膚疾患・眼疾患・耳鼻咽喉疾患・ 精神疾患			講義・庄司		
15	単位認定試験 解説					試験・庄司		
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学2 医学書院						
参考文献		・疾患別小児看護 中央法規出版						

領域	専門分野Ⅱ	科目	小児看護学援助論Ⅲ			担当	庄司 宗和	
開講年次	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	後期	1単位	15時間	8回	演習	グループワーク, レポート		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
庄司 宗和		小児専門病院での看護実践, 看護教員, 看護全般にわたる経験を有する。						
到達目標		演習を通して、子どもを対象とした看護過程の展開方法について学ぶことができる。						
授業概要		子どもの主要な疾患を中心にそれらの病態及び治療法について学び、その知識を基に紙上事例での看護過程の展開を行う。						
学習者への期待 (含む準備学習)		大切な基礎である病態をしっかりと学び、基礎看護学で学んだ看護過程の展開についての知識を復習し、授業に臨むことを期待する。						
回数	単元	授業内容					授業方法・担当	
1	看護過程の展開	看護過程の展開 (ガイダンス、グループワーク演習1)					演習・庄司	
2		看護過程の展開 (グループワーク演習2), まとめ						
3		看護過程の展開 (グループワーク演習3), まとめ						
4		看護過程の展開 (グループワーク演習4), まとめ						
5		看護過程の展開 (グループワーク演習5), まとめ						
6		看護過程発表会						
7		看護過程発表会						
8		総括						
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 医学書院 科学的看護論 薄井坦子 ゴードンの機能的健康パターンに基づく 看護過程と看護診断						
参考文献		ナースが見る病気 薄井坦子						
備考		<ul style="list-style-type: none"> 紙上事例の症例は脳性まひの事例を展開する。 評価は評価表に沿って行う。評価表は前もって学生に提示するものとする。 						

領域	専門分野Ⅱ		科目	母性看護学概論 (看護の対象と理解)		担当	北山 玲子 野辺地 郁子
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験90% グループワーク10%	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験					
北山 玲子		助産師の資格を有し、産婦人科病棟および外来での実務経験を持つ					
野辺地 郁子		周産期センター・新生児集中治療室 (NICU) ・婦人科病棟での実務経験を有する。					
到達目標		1. 母性看護およびリプロダクティブヘルスの中心概念について理解できる 2. 母性看護の課題や役割について説明できる 3. 女性のライフステージ各期における健康問題と看護について理解できる					
授業概要		母性看護学の概念・母子保健の動向・社会の変遷を理解し、女性のライフステージ各期における看護をリプロダクティブヘルスの概念とともに学び理解を深める					
学習者への期待 (含む準備学習)		女性を取り巻く社会の変遷と現状・性感染症や性暴力・虐待などについて理解できるように事前学習をし、講義に臨んでほしい					
回数	項目		授業内容				授業方法 担当教員
1	母性看護の概念		オリエンテーション 母性とは 母子関係と家族				講義 北山
2			セクシャリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーション				講義 北山
3	母性看護を取り巻く社会の変遷と現状		我が国における母性看護の歴史、母性看護に関わる指標と推移				講義 北山
4			母性看護に関わる法律と施策				講義 北山
5			母性看護の提供システム				講義 北山
6	母性看護の対象の理解		女性のライフサイクルと家族 母性の発達・成熟・継承				講義 北山
7	女性のライフステージ各期における看護		思春期・成熟期の健康と看護				講義 北山
8			更年期、老年期の健康と看護 ライフサイクル各期に共通する看護				講義 北山
9	リプロダクティブヘルスケア		家族計画・性感染症予防・HIV感染症				講義 北山
10			人工妊娠中絶・喫煙・性暴力・虐待 国際社会と看護				講義 北山
11	まとめ		グループワーク発表会				講義 北山
12	女性生殖器疾患を持つ患者の看護		女性生殖器疾患患者の看護を学ぶにあたって 女性生殖器の構造と機能 患者の看護①				講義 野辺地
13			患者の看護②				講義 野辺地
14			患者の看護③				講義 野辺地
15	単位認定試験						試験
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学9 医学書院					
参考文献		リプロダクティブ・ライツとリプロダクティブ・ヘルス 谷口真由美 南山堂 「若者の性」白書 第8回 日本児童教育振興財団 小学館					

専門分野Ⅱ		科目	母性看護学援助論Ⅰ		担当	北山 玲子 野辺地 郁子	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次	前期	2単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験80%	看護過程20% 100%
担当者名		担当講義に関する実務経験					
北山 玲子		助産師の資格を有し、産婦人科病棟および外来での実務経験を持つ					
野辺地 郁子		周産期センター・新生児集中治療室（NICU）・婦人科病棟での実務経験有する					
到達目標		1. リプロダクティブ・ヘルスの向上を目指した支援について理解できる 2. 妊娠・分娩期および胎児・新生児期にある母子とその家族の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、アセスメントと看護援助の方法が理解できる 3. 妊婦と胎児の健康の保持・増進のための、妊婦のセルフケア能力を高める援助について理解できる					
授業概要		妊娠・分娩の正常な経過を学び妊産婦と取り巻く家族に対する看護について考えるための思考過程を学ぶ					
学習者への期待 (含む準備学習)		母性看護学概論を復習し、母性看護学に興味をもって講義に臨んでほしい					
回数	授業内容					授業方法・担当	
1	母性の発達を促す看護	子どもを産み育てることとその看護を学ぶにあたって 出生前からのリプロダクティブヘルスケア				講義 野辺地	
2	妊娠期における看護	妊娠期における看護① 妊娠の生理と経過 妊婦の健康診査 妊婦の診察の介助				講義 野辺地	
3		妊娠期における看護② 妊婦の心理的特徴				講義 野辺地	
4		妊娠期における看護③ 妊婦の健康管理と健康相談・教育 妊娠期の看護過程について				講義・演習 野辺地	
5		妊婦の看護にかかわる技術①				講義・演習 野辺地	
6		妊婦体験 子宮底長測定 レオポルド触診法					
7		看護過程の演習 「妊娠期の経過診断」				講義・演習 野辺地	
8		妊娠期における看護④ 分娩準備教育 母親としての自己形成過程の援助 新しい家族役割 獲得への適応過程への援助				講義 野辺地	
9		分娩期における看護	分娩期の看護① 分娩の要素と経過				講義 北山
10	分娩期の看護② 産婦の身体的、心理・社会的変化と 産婦・胎児・家族のアセス メント				講義 北山		
11	分娩期の看護③ 分娩経過と看護（分娩第1期・2期）				講義 北山		
12	分娩期の看護④ 分娩経過と看護（分娩第3期・4期）				講義 北山		
13	産婦の看護に関わる技術① 陣痛測定・呼吸法・弛緩法・補助動作				演習 野辺地		
14	産婦の看護に関わる技術② 分娩各に必要な看護（援助）を考えてみよう				演習 野辺地		
15	単位認定試験					試験	
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院					
参考文献		ナーシング・グラフィカ 母性看護技術 メディカ出版 井上裕美他：病気が見えるvol.10 産科第4版 メディックメディア他、授業の中で随時紹介する					

		専門分野Ⅱ	科目	母性看護学援助論Ⅱ		担当	北山 玲子 野辺地 郁子	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	後期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験80%	看護過程20%	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
北山 玲子		助産師の資格を有し、産婦人科病棟および外来での実務経験を持つ						
野辺地 郁子		周産期センター・新生児集中治療室（NICU）・婦人科病棟での実務経験を有する						
到達目標		1.産褥・新生児期の各期の特徴を知り、必要な看護援助について理解できる 2.産褥・新生児期にある母子とその家族の身体的・心理的变化をふまえた看護過程が展開できる 3.産婦および新生児の観察と基本的看護技術が安全に実施できる						
授業概要		分娩・産褥期及び新生児期の看護過程について基礎知識を学び、紙上事例を用いて看護過程を展開する。また、母性看護における基本的な看護秘術を学ぶ						
学習者への期待 (含む準備学習)		母性看護学概論・母性看護学援助論Ⅰで学んだことを復習し授業に臨み、母子及び家族看護について考えてほしい						
回数	単元	授業内容					授業方法 担当教員	
1	産褥期の看護	産褥期における看護① 産褥経過・産婦のアセスメント					講義 北山	
2		産褥期における看護② 産婦と家族の看護 施設退院後の看護（1ヶ月健診・その後の援助）・退院指導					講義 北山	
3		産褥期における看護③ 母乳育児支援					講義 北山	
4		産婦の看護にかかわる技術① 子宮底の観察と測定方法 悪露の観察					講義・演習 野辺地	
5	新生児期の看護	新生児の看護① 新生児の生理					講義 野辺地	
6		新生児の看護② 新生児のアセスメント・新生児の看護（一か月健診・その後の援助）					講義 野辺地	
7		新生児の看護にかかわる技術①② 新生児の計測 バイタルサイン測定 全身の観察 おむつ交換 抱き方と寝かせ方 排気					演習 野辺地	
8								
9		新生児の看護にかかわる技術③④ 沐浴 更衣					演習 野辺地	
10								
11	看護過程の演習	産褥期の看護過程 新生児期の看護過程					講義・演習 野辺地	
12		産褥1日目の経過診断の看護過程					講義・演習 野辺地	
13		新生児1日目の経過診断の看護過程					講義・演習 野辺地	
14		健康相談・教育実施案作成方法について					講義・演習 野辺地	
15	単位認定試験						試験	
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院						
参考文献		ナーシング・グラフィカ 母性看護技術 メディカ出版 井上裕美他：病気が見えるvol.10産科第4版、メディックメディア他、授業の中で随時紹介する						

領域	専門分野Ⅱ		科目	母性看護学援助論Ⅲ		担当	野辺地 郁子	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	後期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
野辺地 郁子		周産期センター・新生児集中治療室（NICU）・婦人科病棟での実務経験を有する						
到達目標		妊娠・分娩・産褥期および胎児・新生児期の異常と看護援助の方法が理解できる						
授業概要		周産期の異常について学び病態および治療法を理解し、母子およびその家族への看護援助方法を学ぶ。						
学習者への期待 (含む準備学習)		母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱを復習し、講義に臨んでほしい						
回数	単元		授業内容				授業方法・担当	
1	妊娠・分娩期の異常		妊娠・分娩期の異常と看護①				講義 野辺地	
2			妊娠・分娩期の異常と看護②				講義 野辺地	
3			妊娠・分娩期の異常と看護③				講義 野辺地	
4	産褥期・新生児期の異常		産褥期・新生児期の異常と看護①				講義 野辺地	
5			産褥期・新生児期の異常と看護②				講義 野辺地	
6			産褥期・新生児期の異常と看護③				講義 野辺地	
7			産褥期・新生児期の異常と看護④				講義 野辺地	
8	単位認定試験							
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院						
参考文献		ナーシング・グラフィカ 母性看護技術 メディカ出版 井上裕美他：病気が見えるvol.10産科第4版、メッドイックメディア他、授業の中で随時紹介する						

領域	専門分野		科目	精神看護学援助論 I		担当	中川 誠秀 (4) 吉村 淳 (2) 山田 和男 (4) 一ノ瀬 まきの	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
中川 誠秀		病院にて精神科医師として病院勤務						
吉村 淳		病院にて精神科医師として病院勤務						
山田 和男		病院にて精神科医師として病院勤務						
一ノ瀬 まきの		精神看護学に精通						
到達目標		1 自己を振り返り、自己洞察の必要性を理解する。 2 個人とそれを取り巻く人々の関係を理解する。 3 精神科におけるケアの基本を理解する。 4 主な精神障害とその症状、治療の基本を理解する。						
授業概要		主な精神疾患・症状・検査や援助の基礎的知識と考え方を理解し、回復過程に応じた看護や援助方法を理解する。また、自己の傾向性を踏まえながら基本的なコミュニケーション技術を用い治療的に対象と関わる方法を理解する。						
学習者への期待 (含む準備学習)		ここで学ぶコミュニケーション・スキルはどの診療科に行っても通用しますので、確実に身に付けてください。疾患については十分に復習して理解することが望まれます。						
回数	項目		授業内容			授業方法・担当		
1	精神科における対象について		精神を病むことと生きること、 精神症状とは・さまざまな精神症状			講義・一ノ瀬		
2			ケアする相手について知る、関係性を理解する			講義・一ノ瀬		
3	ケアの人間関係		ケアの前提・原則 (人としての尊厳を尊重する、互いの境界をまもる)			講義・一ノ瀬		
4			ケアの方法 そばにすること・遊びとユーモア・話す・聞く 演習(視線・立ち方・すわる位置・声のトーンなど)			講義/演習 一ノ瀬		
5	精神科での診断・治療・検査		統合失調症			講義・中川		
6			気分障害(双極性障害、及び関連障害、抑うつ障害)			講義・山田		
7			神経症性障害、ストレス関連障害、及び身体表現性障害、 神経発達障害、精神作用物質使用による精神及び行動障害			講義・中川		
8			生理的障害、及び身体的要因に関連した行動症候群、 パーソナリティ障害			講義・山田		
9			器質性精神障害、てんかん、認知症			講義・吉村		
10	集団の役割と援助の方法		全体としての家族・家族療法の考え方と技法、 集団の中の自己			講義・一ノ瀬		
11			人間と集団(グループダイナミクス、グループの実践)			講義・一ノ瀬		
12	サバイバーとしての患者と そのケア		受け入れがたい行動を示す患者たち			講義・一ノ瀬		
13			心的外傷への着目			講義・一ノ瀬		
14			回復への道程			講義・一ノ瀬		
15	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(1) 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(2) 精神看護の展開 医学書院						
参考文献								
備考								

領域	専門分野		科目	精神看護学援助論Ⅱ		担当	坂元 洋生 (6) 藤田 享 (10) 加賀谷 恵美子 (12)	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
加賀谷 恵美子		精神科病棟での実務経験あり						
坂元 洋生		精神科病棟看護師として病院勤務						
藤田 享		精神科病棟看護師として病院勤務						
到達目標		1 精神科看護の基本を理解する。 2 患者-看護師間における対人関係を保つための手法を理解する。 3 精神科における身体ケアを理解する。 4 地域における支援と地域リハビリテーションについて理解する。 5 看護における感情労働として、適切に自分の感情を管理し、対処する方法を理解する。						
授業概要		精神科における看護の役割を理解し、対人関係を保つための手法を学ぶ。また、精神科領域で生じやすい身体的症状や地域における支援と地域リハビリテーションについて学ぶ。更に感情労働としての側面を理解し、自己の感情コントロールと対処方法について学ぶ。						
学習者への期待 (含む準備学習)		精神疾患をもつ対象者は、我々と変わりのない人々であることを理解すると共に、我々自身が感情労働に支配されることなく、燃え尽きないことが大切です。						
回数	項目		授業内容				授業方法・担当	
1	精神科における看護の役割		対象にとっての入院とは・入院治療のメリットとデメリット・入院時のアセスメントの必要性 精神科を受診すること、治療の器としての病院・病棟				講義・加賀谷	
2			治療的環境を理解する・精神科病棟の特徴と看護師の役割 入院中の観察とアセスメント、ケアの方向性を考える、隊員に向けての支援とその実際				講義・加賀谷	
3			安全をまもる (リスクマネジメントの考え方と方法・災害時のケア)				講義・加賀谷	
4			緊急事態への対応 (自殺・暴力)				講義・坂元	
5			緊急事態への対応 (離院)、身体拘束について				講義・坂元	
6			回復を助ける (回復とは何か・回復を支えるさまざまなプログラム：集団精神療法の実際)				講義・坂元	
7	患者-看護師関係における感情体験		転移・逆転移、感情の容器、肯定的感情と否定的感情、対処のむずかしい場面				講義・藤田	
8			医療の場のダイナミクス (病棟・チーム・カンファレンスなど)、精神科における身体ケアについて、身体にあらわれる心の痛み、精神療法としての身体ケア				講義・藤田	
9	身体ケアについて		抗精神病薬の有害反応				講義・藤田	
10			身体合併症、身体ケアの実際、電気けいれん療法の看護				講義・藤田	
11			睡眠について、自傷行為・心的外傷への着目と回復へのケア				講義・藤田	
12	地域における精神看護		地域で生活するための原則、 生活を支える制度・地域で精神障害者を支援するための方法				講義・加賀谷	
13			地域での看護の実際、 学校と職場におけるメンタルヘルス対策				講義・加賀谷	
14	看護における感情労働		看護師の不安と防御、感情労働としての看護、 看護師の感情ワーク、看護における共感、感情労働の代償				講義・加賀谷	
15	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 (1) 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 (2) 精神看護の展開 医学書院						
参考文献								
備考								

領域	専門分野		科目	精神看護学援助論Ⅲ		担当	一ノ瀬 まきの		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	後期	1単位	15時間	8回	講義・演習	レポート	90%	授業態度	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験							
一ノ瀬 まきの		精神看護学に精通							
到達目標		1 オレムのセルフケア理論の看護論を活用し、精神を病む対象の看護問題のとらえ方や看護計画の視点を理解する。 2 自己決定を促す看護を理解する。 3 生活援助の必要な精神疾患事例を通し精神看護を考察する。							
授業概要		統合失調症の模擬患者の事例を用いて、ゴードンの機能的健康パターンに基づいた看護過程の展開を通して、精神障害を持つ対象及びその家族への理解を深める手立てとする。							
学習者への期待 (含む準備学習)		看護過程の展開は、精神疾患をもつ対象者であっても何ら変わりのないことを理解し、少しでも精神科実習への偏見が薄まることを期待します。							
回数	単元		授業内容				授業方法		
1	関係をアセスメントする		関係のアセスメントの必要性 精神科におけるプロセスレコードの活用・事例提示				講義		
2			プロセスレコードをもとにグループワーク				講義/GW		
3	看護過程の展開		統合失調症患者の看護過程（講義）、 事例紹介、情報の整理及び分析（自己学習）				講義		
4			事例展開 情報の整理及び分析				講義/演習		
5			事例展開 分析～問題点の抽出～関連図				講義/演習		
6			事例展開 問題点の抽出～目標設定～看護計画立案				講義/演習		
7			事例展開 実施、評価、修正の視点				講義/演習		
8			看護過程のまとめ				講義/演習		
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学（1） 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学（2） 精神看護の展開 医学書院							
参考文献		ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ヌーベルヒロカワ							
備考									

領域	専門分野		科目	看護研究の基礎		担当	一ノ瀬 まきの	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
3年次	前・後期	1単位	15時間	8回	講義・演習	ケーススタディレポート	100%	
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
一ノ瀬 まきの		臨床看護実践経験あり。臨床研究の学会発表、修士学位（看護学）の取得						
到達目標		1 看護研究に取り組む上での基本的な考えを理解できる。 2 看護研究の目的、種類について理解できる。 3 看護研究の過程について理解できる。 4 事例研究に関する基礎的な知識と方法について理解できる。 5 看護研究を実際に行い、研究成果を発表することができる。 6 研究成果を論文にまとめる事ができる。						
授業概要		看護研究及びケーススタディに関する一般的知識を学び、臨地実習で受け持ったケースの看護過程について振り返り、文献を活用しながら看護について考えを深めるとともに、今後の看護実践を研究的な態度で行う能力を養う。						
学習者への期待 (含む準備学習)		看護援助の内容を振り返り検討するという手法は、日常の看護内容を振り返り、具体的な看護の方向を見出すための必須の学習内容である。看護のプロセスの中で生じた疑問や問題を受け止め、自分の頭で考える行動が自分の看護者としての力になることを演習を通して理解してほしい。						
回数	項目		授業内容				授業方法	
1	看護研究の理解		看護研究の意義と必要性、倫理的配慮 研究方法の特徴と展開、研究プロセス 研究における文献検索の意義と検索方法 ケーススタディの特徴と展開 ケースレポートのクリティーク				講義	
2							講義	
3							講義	
4	ケーススタディの展開		ケーススタディ演習				演習	
5							演習	
6							演習	
7							演習	
8							演習	
教科書		坂下玲子, 他：系統看護学講座 看護研究, 医学書院, 2016						
参考文献		高橋百合子監修：看護学生のケーススタディ, メジカルフレンド社, 2011. 松本孚, 森田夏実編集：看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方, 照林社, 2009.						
備考								

領域	専門分野	科目	基礎看護学実習Ⅱ			担当	守花絵 他
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次	後期	2単位	90時間	2週間	実習	実習目標達成度	100%
授業概要		学習した知識を実践の場において統合し、一人の対象との関わりを深め、看護過程を実践して看護の思考過程を学ぶ。特に対象に必要な基本的な日常生活援助方法を考え、看護師と共に指導を受けながら実践する。					
学習者への期待 (含む準備学習)		良い看護を行うためには、対象をしっかり理解することが大切である。三重の関心を持ってその人の持てる力に働きかける関わりを持つ。わからないことは、文献で調べ、それでもわからないときは、質問すること。					
実習内容							
<p>1 実習目的</p> <p>身体的・精神的・社会的側面から対象を理解し、一連の看護過程を実践することで、看護の思考過程を学び、看護について考える力を身につける。</p> <p>2 実習目標</p> <p>(1) 対象の身体的・精神的・社会的状況を理解し、一人の生活者として捉えることができる。</p> <p>(2) 一連の看護過程を実践することで、看護の思考過程についての理解ができる。</p> <p>(3) 実践したことを振り返り、看護について考えることができる。</p> <p>(4) 学生としての責任のある行動をとり、主体的に学びを深めることができる。</p> <p>3 実習計画</p> <p>(1) 病院施設で実習を行う。</p> <p>(2) グループを編成し、1病棟1グループ配置する。</p> <p>(3) 実習時間 原則 9:00 ～ 15:30</p> <p>(4) 1名の学生が、対象1名を受持ち、対象に必要な看護援助を計画・実施・評価する。</p> <p>(5) 受持ち患者への看護援助は、実習指導者または教員の助言・指導のもと実践する。</p> <p>(6) カンファレンスの運営は、学生主体で行い、学生同士での学びを共有する。</p> <p>*詳細は実習要項を参照する</p>							
教科書		基礎看護学領域で使用したテキスト、配付プリントを活用					
参考文献		必要に応じて提示する					
備考		基礎看護学実習Ⅰを履修していること					

領域	専門基礎分野Ⅱ		科目	成人・老年看護学実習Ⅰ (急性期)		担当	内田祝子 桐田三世 他	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
3年次	前・後期	3単位	135時間	1回	実習	実習評価表	100%	
担当者名		担当講義に関する実務経験						
授業内容		周手術期の患者、慢性疾患の急性増悪患者など侵襲的な治療検査を受ける患者・家族を多面的に理解し、看護過程を通して侵襲に伴う変化への対応と心身の回復・社会生活への適応がはかれるように看護を学ぶ。						
学習者への期待 (含準備学習)		基礎看護学・成人看護学・老年看護学で学習した知識・技術をもって、実習の目的を意識しながら臨地実習に臨む。急性期・周手術期、特に手術直後の患者は容態や治療経過の変化が早いいため、主体的・積極的に看護展開ができるようにしてほしい。						
実習内容								
<p>【実習時期】 3年次 5月～10月</p> <p>【実習期間】 3週間</p> <p>【実習目的】</p> <p>急激な身体侵襲により、生命の危機や身体の苦痛が大きい状態にある患者及び家族の特徴を理解し、侵襲に伴う変化への対応と心身の回復・社会生活への適応がはかれるように基礎的な実践能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 急性期にある対象の心理・身体・社会的影響を理解し、対象が心身共に良好な状態で検査・治療を受ける為の看護援助に活用できる。 急性期にある対象の看護上の問題を把握し、計画立案・実施・評価ができる。 手術などの侵襲的検査・治療を受ける対象の侵襲に伴う変化を理解し、合併症を予防し心身の回復と日常生活への適応に向けた看護援助ができる。 看護スタッフや他の医療スタッフとのコミュニケーションを円滑にし、その機能を理解し、医療チーム内で果たすべき看護の役割と態度を学ぶ。 看護学生としての学ぶ姿勢と誠実で責任ある態度をとることができる。 <p>【実習計画】</p> <p>※ 実習スケジュールは、学内実習及び臨地実習の計3週間で構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 学内実習では、看護過程の展開（紙上事例）を行い、また、技術演習の中で急性期患者に必要な日常生活援助技術や診療援助技術について、グループワーク・DVDや文献で学習する。 臨地実習では、学生1～2名で急性期にある患者1名を受け持ち、術前・術後の看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護について学ぶ。 								
教科書								
参考文献		オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。						
備考		詳細は実習要項を参照						

領域	専門基礎分野Ⅱ		科目	成人・老年看護学実習Ⅱ (慢性期)	担当	内田祝子 桐田三世 他	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次 3年次	後期 前期	3単位	135時間	1回	実習	実習評価表	100%
担当者名	担当講義に関する実務経験						
授業内容	慢性疾患に罹患している対象及び家族に対し、看護師と対象の人間関係を基盤に対象の持てる力を活用したセルフケアを目指し、成長・発達・適応の可能性を最大限に引き出す看護を学ぶ。						
学習者への期待 (含準備学習)	基礎看護学・成人看護学・老年看護学で積み重ねた学習を振り返り、実習の目的を意識しながら臨床実習に臨んでほしい。						
実習内容							
<p>【実習時期】 2年次12月下旬 ～ 3年次6月</p> <p>【実習期間】 3週間</p> <p>【実習目的】</p> <p>慢性疾患をもつ対象とその家族の特徴を理解し、発達段階に応じた健康障害と共に生きていくことを支える看護実践能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患をもつ対象の身体面・心理面・社会面の特徴を理解し、看護援助に活用することができる。 慢性疾患をもつ対象の看護上の問題を把握し、計画立案・実施・評価ができる。 慢性疾患をもつ対象と家族が、日常生活のなかで自己管理と適応がはかれるように対象の持てる力を活用したセルフケアを目指した看護援助ができる。 看護スタッフや他の医療スタッフとのコミュニケーションを円滑にし、その機能を理解し医療チーム内で果たすべき看護の役割と態度を学ぶ。 看護学生としての学ぶ姿勢と誠実で責任ある態度をとることができる。 <p>【実習計画】</p> <p>※ 実習計画実習スケジュールは、学内実習及び臨地実習の計3週間で構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 学内実習では、看護過程の展開（紙上事例）を行い、また、技術演習の中で慢性期患者に必要な日常生活援助技術や診療援助技術について、グループワーク・DVDや文献で学習する。 臨地実習では、慢性期にある患者1名を受け持ち、看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護について学ぶ。 							
教科書							
参考文献	オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。						
備考	詳細は実習要項を参照						

領域	専門分野	科目	成人・老年看護学実習Ⅲ		担当	内田祝子 桐田三世 他	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	期間	授業形態	評価方法	
2年次	後期	3単位	135時間	3週間	実習	実習目標達成度	100%
授業の概要		療養期や終末期の対象を受け持ち、安楽な日常生活の支援と、残存機能を活かしQOLを高めるための看護を学ぶ。					
学習者への期待 (含む準備学習)		療養期や終末期における全人的な痛みを理解し、「できること」や「可能性」を大切に、その人らしさを尊重した関わりを意識して看護過程展開ができるようになってほしい。					
実習内容							
<p>【実習期間】 2年次後期～3年次前期</p> <p>【実習目的】 療養期・終末期にある受け持ち対象とその家族を総合的に理解し、受け持ち対象の健康上の問題に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護老人保健施設で暮らす高齢者を通して、各職種の役割と協働・連携の重要性、看護師の役割が理解できる。 2 療養期・終末期にある対象の身体的、心理的、社会的側面と生活史や生理的機能低下及び健康の段階から総合的に理解する。 3 健康障害により生活機能が低下した対象の残存機能を把握し、それを最大限活用できるような看護を計画し、実践、評価する。 4 看護スタッフや医療スタッフとのコミュニケーションを円滑にし、その機能を理解し医療チーム内で果たすべき看護の役割と態度を学ぶことができる。 5 療養期・終末期にある対象の生活信条、信念、価値観を尊重した態度がとれる。 6 看護学生としてふさわしい態度をとることができる。 <p>【実習計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習病院において療養期又は終末期の方を受け持ち、情報収集し看護過程の展開を行い、必要な援助を実践する。 ・ 介護老人保健施設での実習を通し、生活者としての視点で支援することについて学ぶ（3日間） 							
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 生活機能からみた、老年看護過程 医学書院						
参考文献	オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。						
備考	※詳細は実習要項を参照						

領域	専門分野		科目	母性看護学実習		担当	野辺地 郁子 鈴木 晴美
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次	後期	2単位	90時間	2週間	実習	実習目標達成度	100%
授業概要		妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象及びその家族への看護や母子・家族支援のための社会資源の活用の実際の場面を見学することから、看護の役割と責任を学ぶと共に対象に看護を実践する基礎能力を養う。					
学習者への期待 (含む準備学習)		妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期などの対象の一般的な特徴に関する知識の整理を臨地実習の大切な準備と考え、限られた期間の実習に体調を整えて臨んでほしい。					
実習内容							
<p>1 実習目的</p> <p>女性を取巻く環境の変化や妊娠・分娩・産褥における母性の特徴を理解し、妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族を対象に看護を実践する能力を養う。</p> <p>2 実習目標</p> <p>(1) 妊娠期、分娩期、産褥期及び新生児期の特徴を理解し、母子及びその家族への母性看護に必要な看護技術を学ぶことができる。</p> <p>ア 妊娠期</p> <p>(ア) 妊婦健診や妊婦対象の教室等を通して、妊娠の経過を学び必要な援助が理解できる。</p> <p>(イ) 対象への保健指導を理解できる。</p> <p>イ 分娩期</p> <p>(ア) 第1期、2期、3期、4期の定義と看護援助について学び、必要な援助ができる。</p> <p>(イ) 陣痛緩和の方法を学び、活用できる。</p> <p>ウ 産褥期</p> <p>(ア) 身体的・心理的变化及び子育て環境について理解できる。</p> <p>(イ) 子宮復古・感染予防に関する指導と看護について理解できる。</p> <p>(ウ) 母子相互関係の確立を図るための看護について理解を深めることができる。</p> <p>(エ) 父子関係の確立を図るための看護について理解できる。</p> <p>エ 新生児期</p> <p>(ア) 出生直後の新生児の観察ができる。</p> <p>(イ) 各種計測（バイタルサイン、頭囲、胸囲、身長、体重）が正しくできる。</p> <p>(ウ) 新生児の健康状態のアセスメントができる。（生理的体重減少、生理的黄疸）</p> <p>(2) 母子保健に関連する法規や制度についての学びを基に、母子及び家族支援のための社会資源について理解することができる。</p> <p>(3) 対象者を取巻く医療チームの構成と役割を知り、チームの一員としての看護の役割と責任を学ぶことができる。</p> <p>(4) 専門職者として守るべき看護倫理について考え、行動できる。</p> <p>3 実習計画</p> <p>(1) 病院・助産院・診療所等の施設で実習を行う。</p> <p>(2) グループを編成し、1実習施設に1グループを配置する。</p> <p>(3) 対象1名の受け持ち又は、診察・看護援助や保健指導場面の見学を通して学ぶ。</p> <p>(4) 状況に応じて実習指導者と共に援助を行い、看護の役割を学ぶ。</p> <p>4 実習時間</p> <p>原則 8：30～16：30</p>							
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院					
参考文献		オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。					
備考							

領域	専門分野		科目	精神看護学実習		担当	一ノ瀬 まきの 他
開講年次	開講時期	単位数	時間数	期間	授業形態	評価方法	
2年次	後期	2単位	90時間	2週間	実習	実習目標達成度	100%
授業概要		臨地実習を通して、精神に障害のある対象を尊厳のある人間として理解し、療養生活を余儀なくされた対象及び家族に対する看護の実践を学ぶ。					
学習者への期待 (含む準備学習)		病態などの基礎的知識を理解し、個別性を踏まえた看護過程を展開できるようになってほしい。					
実習内容							
<p>【実習時期】 2～3年次 (2月～9月)</p> <p>【実習期間】 2週間</p> <p>【実習目的】</p> <p>精神に障害のある対象を尊厳のある人間として理解し、病院での療養生活を余儀なくされた対象及び家族に対して看護を実践できる基礎能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 精神に障害のある対象及び家族の状況や抱える心理的負担を理解する。 2 社会生活に適応することを目指した日常生活の自立への援助を実践できる。 3 尊厳のある人間としての患者-看護師間の相互関係を構築して、自己の援助的関わりの振り返りができる。 4 精神医療における看護の役割・機能を理解する。 5 他職種との連携について理解する。 6 看護学生として望ましい態度を身に付けることができる。 <p>【実習計画】</p> <p>実習病院では一人の対象者を受け持ち、情報収集し看護過程の展開を行い、必要な援助を実践する。</p>							
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 (1) 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 (2) 精神看護の展開 医学書院						
参考文献	薄井坦子 科学的看護論 日本看護協会出版会						
備考							